

# 日本学校農業クラブ連盟 全国大会実施基準改定に向けたアンケート

## (プロジェクト発表会)

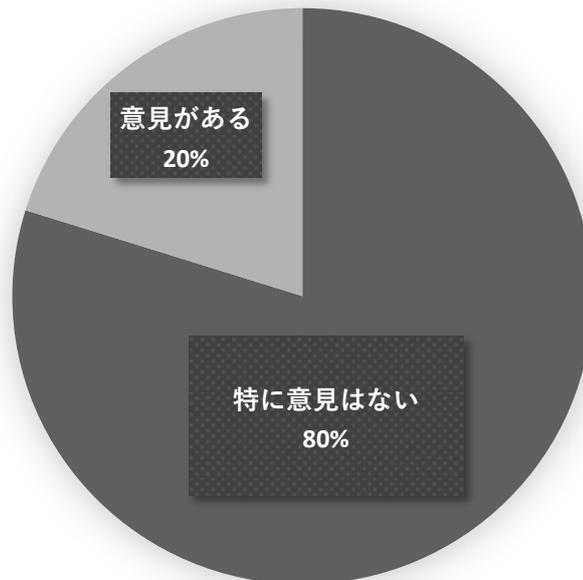
実施期間：2020年8月31日～10月1日実施

実施対象：日本学校農業クラブ連盟加盟校

回答数：223校/380校

### 1. プロジェクト発表会（1）発表分野と内容について

#### プロジェクト発表会（1）発表分野と内容について



#### 《意見がある》

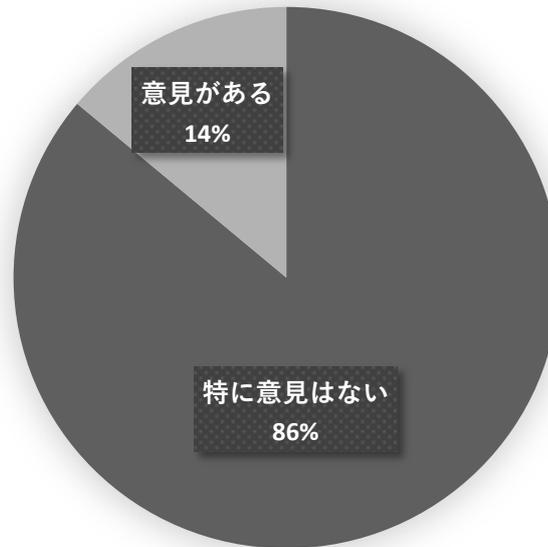
- 以前実施していた区分にあった「食料・生産」では、農業生産の研究プロジェクトと食品加工に関する研究プロジェクトを同じ土俵で比較審査するのには無理があるとの総括があって、現状の分野に改訂した経緯があったと思う。今回の提案内容はⅠ類がまた元の「食料・生産」と同じ状態に戻っているように感じるが、日連はどのような考えでこの提案を出しているのか説明してほしい。  
分野を学習指導要領の分野に合わせて4つの分野とすることは考えないのか。2会場で2分野ずつ開催し、審査員も2分野ずつ担当すれば開催県や運営担当校の負担も少なくすむし、学習指導要領に則っており、かつ表彰の機会も増えるのではないかと（北北海道）。
- （1）Ⅰ類に発表が偏る可能性が高い。（2）林業の経営が「国土保全」「環境創造」という分野に内包されるのは違和感がある（東北北海道）。
- 意見発表大会と分野の区切りを揃えられないか。⇒混乱をきたす要因になってしまう可能性がある（東北北海道）。
- 分野Ⅱ類について 具体的な研究内容を見ると土木・林業系に内容が限定されており、多くの学校が出場を制限されてしまうことが考えられる。意見発表大会の分野と同一で良いのでは（南北北海道）。
- 食品加工はⅠ類とⅢ類の両方にまたがるイメージで、混乱を招くと考えるので、従前の規定にしてほしい。Ⅱ類に食品加工分野が入らないということは林業科などの学科しか出せない。不利になると考えているので従前の規定にしてほしい（南北北海道）。
- Ⅱ・Ⅲ類の意見発表の内容と統一するべきではないか（青森県）。
- これまで以上に、分野の偏りが出るのではないかと。Ⅲ類内容について、1項目だけではなく、さらに掘り下げた項目を追加するなど、発表に深みをもたせるような内容にして欲しい（岩手県）。
- Ⅱ類の内容では出場が難しい場合が想定される。「生産物の加工技術や商品に関すること」を残すべき（岩手県）。

- 分野Ⅱ類は現状通りでよい。その理由として、Ⅱ類の開発を除くと国土保全と環境創造のみに偏りが見られる。食品や地域資源等の活用に関する開発は、全国の農業学科を置く農業高校、併置校、総合学科高校など、多くのクラブ員がその分野で研究開発を進めているため、現状のままの方が混乱しない。提案された新分野は、土木・造園・林業に突出しているようにも見える。全体的にそのような学科または学校は少ないと考えられるため、バランスに問題があると思われる。例えば、純粋に食品開発や地域資源等で開発を繰り返しているところは、Ⅰ類でもなしⅢ類でもなくなることが予想される。よって現状のままの方が教育的である（岩手県）。
- 区分が曖昧 ⇒Ⅰ類（食料・生産・経営）Ⅱ類（環境）Ⅲ類（文化生活・地域再生）はどうでしょう。特に、「資源活用」という分野が超ネック。どの分野にも当てはまり、どの分野にも持って行きやすい。旧区分（【食料・生産】、【環境】、【文化・生活】）のほうが分かりやすい（秋田県）。
- 区分が曖昧⇒Ⅰ類（食料・生産・経営）Ⅱ類（環境）Ⅲ類（文化生活・地域再生）はどうでしょう。特に、「資源活用」という分野が超ネック。どの分野にも当てはまり、どの分野にも持って行きやすい。旧区分（【食料・生産】、【環境】、【文化・生活】）のほうが分かりやすい（秋田県）。
- Ⅱ類の内容が一つであると研究の幅が狭くなり、Ⅱ類への出場が難しくなると思う（秋田県）。
- 内容について：優秀校のプロジェクト発表を見ると、研究内容や原稿、発表用のスライド作成など「本当に生徒達だけでやっているの？」と疑問を持ってしまう。顧問の研究になっていないか疑問が拭えない。優秀校や他校が、どのようなカリキュラムで授業を行っているのか、また教授法など、全国の顧問同士の交流会（全国顧問会）などを日連主催で開催してほしい。またその交流会では好事例だけではなく、その学校が抱える課題や改善に向けての取り組みなどをを共有したい（福島県）。
- 分野Ⅱに関して「生産物の加工技術や商品に関すること、国土や地球環境の保全・創造に関すること」となっているが、この二つに関して関連性が低いように感じます。内容的にも異なるため、分けたほうがよいと考えます（群馬県）。
- 意見発表のⅡ類と内容が違うのは何か理由があるか。特に食品製造の分野がプロジェクトのどの分類に入るのか（埼玉県）。
- プロジェクト発表会と意見発表会のⅡ類の内容が異なることに違和感がある・以前のA~C部門のようなシンプルな内容のほうがわかりやすい・学習指導要領に沿うことも大切である。しかし、生徒自身がやりたい内容ができるようになればもっとたくさんの生徒が参加しやすいものになるのではないかと（神奈川県）
- スライドを使った発表を変更し、ポスター（パネル）発表にするのはどうか。  
（理由1）国内で開催される多くの大会、学会ではポスター（パネル）発表が主流である。  
（理由2）各発表はポスター（パネル）展示のスペースだけで済むので、大きな会場（学校の体育館など）を使って、多くの発表を見ることができる。  
（理由3）発表は各校代表、または都道府県代表から出場可能とし、全国の多くの生徒たちに出場機会を与えることで、研究活動の達成感や自信につなげることができる（神奈川県）。
- 環境系列を学習している生徒たちが生かされる文言への変更をお願いしたい（山梨県）。
- 従来ではⅡ類の内容に含まれていた「加工技術」がⅠ類へ移ってしまった。総合学科などで農業の基礎的な内容を中心に学ぶ高校では、Ⅱ類への参加が難しくなるのではないかと。全類への参加を理想とするならば、応募の偏りが出してしまうように思える。逆に、Ⅰ類の内容が広くなりすぎてしまうと思う。また、Ⅲ類の内容で「社会動物」と表現されているが、どんな動物を指すのか、分かりにくいと思う。おそらく愛玩動物や伴侶動物等を指すものと思うが、社会性動物も含むのか。ここでいう「社会動物」の定義は何であるか、明確に示したい（静岡県）。分野Ⅱ類の参加校がしぼられてしまうのではないかと（長野県）。
- Ⅱ類の内容が「地球環境の保全」となってるが、実際の研究内容は地域環境レベルであるためギャップを感じる。意見発表と区分内容に若干の差異があり、混乱するため統一した方がよい（富山県）。
- Ⅲ類の分野は、自営学科のある学校では発表が難しい内容となっており、富山県では発表できる学校がないのが現状である（富山県）。
- Ⅱ類の出場が、土木、森林、造園分野に限られ偏りが予想される。Ⅰ類に集中する。食品製造系をⅡ類に含めた方がよい（福井県）。
- プロジェクト発表会と意見発表会の分野が異なるが生徒及び教員が混乱しないか（愛知県）。
- 分野Ⅱ類で、食品製造や食品流通が、「この分野に関する内容がⅠ類からⅢ類までの各分野の内容と関連することにより学習の幅が広がることを期待されるため、発表分野の類として設定しない」とあるが、他の分野の内容も他の分野と関連することで学習の幅が広がることから、食品製造や食品流通の分野のみを外す理由にはならないのではないかと（三重県）。

- プロジェクト発表の発表原稿を提出すると言うルールを見直して下さい。(当日言い回しや文章が多少変わっても問題ないはず。提出することで原稿通り読まなければいけないという心理が働き、発表に支障が出る)。プロジェクトの中身によって短期で解決できることもあれば、長期間かかってしまう内容もあります。しかし本来のプロジェクト活動は課題がなるべく効率よく短期間で解決することが望ましいとされます。継続的なプロジェクト活動が評価され、短期のものが評価が劣る今の傾向を見直して欲しいです。もしくはプロジェクト発表は競技会としてのあり方自体を見直しても良いのではないかと思います。先生主体の発表に生徒が参加しているだけなのか、生徒主体の活動の発表なのか見極めが審査員にも難しくなっているのではないのでしょうか。分野を意見発表と変えられているのはなぜですか？(京都府)
- 分野の名称を変えることで何か変わるのか？以前と同じでも良いと思うのですが(京都府)。
- 具体的な研究内容(例)のⅡ類で、林産物の利用に関する研究とあるが、農業生産物のうち、林産物についてはⅡ類になるという理解でよいか(京都府)。
- 生徒及び教員や担当者に関する感染対策、場所や人数の制限等の配慮をお願いします(大阪府)。
- 農業生産物の加工と地域資源の活用とが明確に区別できないため、食品加工をⅢ類にまとめた方がよいと考えます(兵庫県)。
- 発表分野について、意見発表とではそれぞれの類に該当する項目が異なっているため、統一してほしい(山口県)。
- 6次産業に関わる内容の場合、分野設定が難しいため、食品分野だけでなくすべての分野で横断的に考えてほしい(徳島県)。
- Ⅱ類の分野が広すぎないか。環境から加工品開発と全く異なる分野である。加工品は開発だけでなく、必ず地域への波及も検証しているため、Ⅲ類でもよい(愛媛県)。
- 分野が年々わかりにくくなってきていると思います(愛媛県)。
- 食品製造や食品流通の分野を発表分野の類として設定しない理由について、補足説明にあります。それは資源活用や地域振興の分野(科目として2科目しか設定されていない)にも言えることではないか。また、Ⅰ類の内容「農業生産物の加工・・・」が想定する発表との違いは(愛媛県)。
- 意見発表と分野の内容が異なることが気になる。(特にⅡ類)県連大会において、審査員の選定に苦慮するのではないかと。分野Ⅱは、Ⅰ、Ⅱに比べて狭い。規格外農産物などを含む“エコ”な取り組みも入れるなど幅を持たせた邦画よいのでは。(ⅠとⅡは幅が広すぎる)  
規格外農産物を活用した商品開発で「加工法を確立した結果商品化につながり、廃棄も減った」というような発表の場合、Ⅰの農業生産物の加工になるのか、Ⅲの地域資源の魅力創造になるのかわからない。分野が明確でないと指導者がエントリーの際に混乱する(佐賀県)。
- 分野については学習指導要領に沿った分け方なので問題ないと思います。しかしⅡ類の内容については具体的な研究内容を見ても限られた学科や教科の内容になると考えられます。新基準案になると、各単位クラブでの校内予選を考えた時にⅡ類への出場がなく、最悪の場合、県代表も選出できなくなることも考えられます(長崎県)。
- Ⅰ類の幅が広い。Ⅱ類が狭い(長崎県)。
- 現状の発表内容を見た場合、Ⅱ類は出場が難しくなるのではないかと。分野の区別がわかりづらい。①食品関係はⅡ類にしていと思う。Ⅱ類のⅠはⅢ類に入れていと思う。②または意見発表の新区分と合わせる。Ⅱ類は農業土木、林業、造園が主に対象となるが、全国的にも少ない学科を想定すると、出場者数のバランスはとれるのか。Ⅱ類の内容だけでは、出場できる学校が制限され運営が大変になる。また、各校の出場機会も減じる。現行の分野や内容での分け方が合っている。  
ここ数年で区分の変わり方が多い。継続研究を重視すると言うわりには変わりすぎではないか。特に今回の”新Ⅰ類”は、幅が広すぎて比べるのは難しいのではないかと。しかも今回の区分は以前の食料・環境・生活の時とどう違うのか？問題があって変更したのにまた戻すのか。そもそも、学習指導要領に合わせる意味があるのか。もっと純粋に平等に生徒の活動を評価できるようにしてもらいたい。食品関係のものをきちんとどこかの区分に入れるべき(長崎県)。
- Ⅰ類を「農業生産」「農業経営」に絞るべきである。「食品製造・加工」と同類で審査すべきではない。また、意見発表との分野が異なるように感じる(熊本県)。
- 環境と食品を一緒にするのは難しい(宮崎県)。
- 区分Ⅱ類が環境保全に特化しすぎている感じがします。区分Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類ではできる限り全ての学科が地域の課題解決に取り組むことのできる内容が望ましいと考えます(沖縄県)。
- ①Ⅱ類の内容が限定されすぎて各校の設置学科や教育課程の置き方によっては参加が難しくなる学校が多くなること懸念される。②意見発表分野内容と同一にするべきではないでしょうか(沖縄県)。
- Ⅱ類の分野が広いので、審査が難しい等の意見が挙がりました(沖縄県)。

## 2. プロジェクト発表会（9）審査基準と配点について

### （9）審査基準と配点について



#### 「意見がある」

○事前資料の審査において、「1 発表原稿は誤字脱字がなく、書かれているか」については前回の導入時にも多くの議論がなされてきたところだが、指導担当教師の指導レベルの問題であると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。また、発表方法の審査において、「1 発表に関する準備や機器の活用は適切であったか」については近年の機器トラブルの少なさ、運営担当校の参加校への指導徹底等もあり、発表会までの事前指導により十分対応できるものであると考えるので、その部分を審査するのはクラブ員の活動評価としては相応しくないと考える。したがって、両項目とも審査項目に入れることは必要ないのではないかと。

事前資料と発表内容の審査項目は、PDCAを念頭に置いた新たな審査項目の設定であると認識しているが、事前資料における審査項目と発表内容における審査項目に重複する部分を感じられる。特に事前資料の審査項目3と発表内容の審査項目3、事前資料の審査項目5と発表内容の審査項目4については検討してほしい（北北海道）。

○（1）記録の重要性を考えるのなら、活動記録にもっと重きを置くべきだと思う。（2）パソコンで原稿を作っている時代に誤字・脱字の配点は不要であり、生徒より指導者の問題に感じる（東北北海道）。

○誤字・脱字の配点は必要なのか（東北北海道）。

○主観に左右される基準に思える（岩手県）。

○基準が難しすぎる（岩手県）。

○エントリーシートは本当に必要であるか。作成にも手間がかかるので無くても良いのでは（岩手県）。

○事前資料の【発表の原稿は誤字脱字がなく、書かれているか】については、見直した方が良い。その理由は、南東北大会全国大会プロⅡ類の審査員をしたときにも思ったが、全国大会実施基準P3発表方法⑤にある「・・・ただし、発表の一字一句の違いを判断するものではない」と標記されているが、審査する側とすれば、訂正箇所の間違いを見つけるところからはじめてしまい、それが何文字以上なら何点減点するのかと明快な答えはなく、審査員に委ねられるのが現状である。言葉の前後のニュアンスで分かる文面も多々あるので、減点する必要は全くないと思われる。ただし、明らかに違うと判断されるときは、発表内容で減点すれればいいだけの話ではないだろうか？子どもたちへの教育的配慮をすることも我々の使命ではないだろうか。意見発表も同様である。発表方法の【発表に関する準備や機器の活用は適切であったか】についても、見直した方が良い。

研究発表は、その内容で優劣をつけることが本質ではないだろうか？出場校が全国の場合でPCのフリーズ等により、準備時間超過によって最大10点まで減点された学校を見てきた。実質上位入賞から外れてしまったと思われる。これまでの苦労が水の泡になってしまうのは、生徒や指導者にマイナスであり、農業クラブの意義を見失い、批判の元になることも懸念されるため柔軟な対応が求められる時代ではないだろうか（次頁続き）。

運営側のスムーズに進行させたいことも分かるが、何かトラブルがあったときに出場校側なのか、運営校側なのか過失の議論もされることもあるが、全国まで来た学校なのだから、すべてトラブルが生じた場合は、その分の減点はせずに運営校側で対応するのが子どもたちのためになると考える。発表校は、極度な緊張に襲われながら身を削って挑んでいる。そのような苦勞してきた生徒に、準備時間の超過で、がっかりさせることは教育的ではない。

南東北大会全国大会プロII類の審査員をしたときにも、審査員全員が見直す方向で検討するべきであると話題に上がった。【・・・機器の活用は適切であったか】については、あまりあり得ないことだがおそらく、最初から最後まで動画でプレゼンしたとか、過度に機材を使って、演出してしまったとかであれば、この表現は残すべきだが、前述のように、PCのフリーズ等はその対象から外すべきである（岩手県）。

- エントリーシートは不要ではないか（岩手県）。
- 各県で記録簿が手書きで作成した資料とPCで作った資料で得点に差があると聞いています。統一していただけないでしょうか。・発表内容の配点（45/100点）が低すぎる。本来重視すべきは発表・研究内容であって、プレゼン技術勝負ではない。発表方法の得点が高すぎるため、過度な演出（本番の準備中における原稿の発声、丁寧すぎる挨拶や、プレゼン等）が度々散見される（秋田県）。
- 全国大会（南東北大会）の活動記録簿展を参観したが、記録簿ファイルが必要以上に厚いと感じられ、厚さ10cmを超える学校も多かった。大多数が審査基準にある「精選」とはほど遠いものであり、審査の公正さにも影響するのではないかとと思われる。そこで、ページ数に上限を設定し、基準を超えるものは発表時間超過と同様の方式で減点する等の対策を講じる必要があるのではないかと（秋田県）。
- 発表方法への配点が高すぎる。良い発表を選考するという点では発表内容や記録簿の配点を高くし、重視する方向性の方が良いと思う（秋田県）。
- 活動記録簿の配点は、もう少し低くしてもよいのではないのでしょうか。もっと簡略化していても良いのではないかと思います（千葉県）。
- 誤字脱字の減点に必要性を感じないので削除しても問題ないと思う（神奈川県）。
- 生徒と教員の負担を減らすためエントリーシートは廃止すべき。もしも、エントリーシートが残るようならエントリーシートの点数（10点）は項目2,3に5点ずつ割り振るべき。項目1は不要である。内容も、上段の「活動期間」や「科目」までで良い。  
生徒と教員ともに資料を作成することがとても大変なため、「8cmファイルに収まる程度」という上限を設けたほうが良い。厚さでなく中身を良いものにする。「健全」という語句の基準があいまいなため削除したらどうか（神奈川県）。
- 区分を細分化し、審査は各カテゴリーに合った専門的な知識を持つ方をお願いするのはどうか。（理由1）各発表ブースを短時間でまわり、質疑応答形式により公正で専門性を活かした審査が可能になる。（理由2）カテゴリーごとに審査集計するので、多くの自家や労力をかけることが少なくなる（神奈川県）。
- 事前提出書類に関する配点を減らし、発表としての優劣に重きを置くのが良いと感じる（静岡県）。
- エントリーシートそのものの評価が不明である。次に事前資料の2・3と発表（発表内容）の2で、評価するポイントが峻別できるようにしてほしい（新潟県）。
- 発表原稿の提出の指定様式が異なるとかで、減点をするようなルールを見直して下さい。あまりにも異なる場合について注意、指摘ぐらいで良いのではないかと。大切なのは生徒の発表であり、生徒の不利になる減点は避けるべきである（三重県）。
- 審査基準と配点ですが大まかなループリックを活用した「これはできている、これはできていない」などの基準がいるのではないかと（京都府）
- 発表内容2の「職業人として必要な資質。能力を向上させているか」をどのようにひょうかするのか？（京都府）
- Web等の新しい審査方法、基準等が必要だと考えます（京都府）。
- 発表原稿と活動記録の「発表原稿は誤字脱字がなく書かれているか」という項目ははたして必要か（島根県）。
- その年の審査員によって基準が異なっているように感じる（愛媛県）。
- 発表中に原稿を見たら減点になるのか。また、減点になる場合はどの程度見たら減点の対象となるのか。減点にならない場合は、原稿を見ずに発表することが加点となるのか。今後、リモート開催も検討しなければならないのではないかと。規模縮小のために発表部門3つから1つに統合することは考えていないのか（高知県）。
- 分野からズレた発表があった場合、審査にどのように影響するのか。エントリーシートの必要性がわからない。要約する力をつける訓練にはなるが、3年間の研究を10分にまとめ、記録簿を作成している時点でその力はつくのではないかと（佐賀県）。
- 活動記録簿は審査基準から外すべき。「発表内容」ではなく、「研究内容」ではないのか。プロジェクト研究の発表の場であることから、研究の内容をしっかりと評価してほしい（佐賀県）。

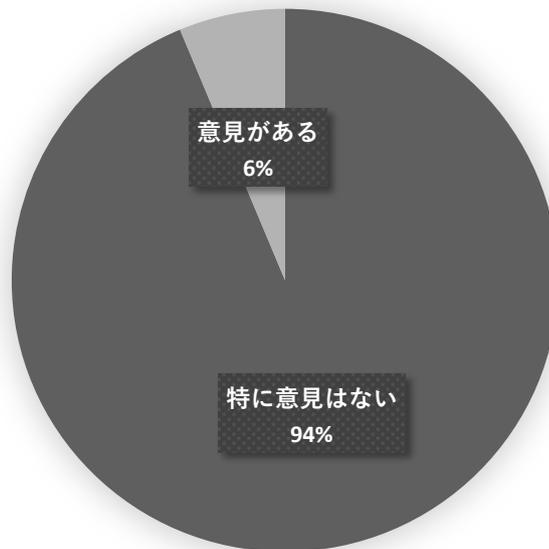
○記録簿は、プロジェクト発表の中で最も労力を要する部分である。生徒はもちろんのこと、指導者もかなりの時間を割き休みなく力を注いでいる（全国でプロジェクトのために離婚したという話も聞く）。今回のように記録簿の点数を低くするのであれば、そろそろ記録簿を簡素化（例えば、「ファイルの厚さを5 cm以内」や「枚数の制限（例えば40ページ以内）等）し、働き方改革をしていく必要がある。

また、現在はパソコンを利用してデータをまとめることが当たり前であるため、記録簿は手書きではなく時代に合わせてプリントアウトしたものでよいと思う。そのことにより、審査員も審査しやすくなる。また、審査の内容を細かく分けるのは良いが、出場する生徒や指導者、また審査員自体が審査内容をしっかり理解できるようにしてほしい（長崎県）。

○「発表内容」の「エントリーシートの内容を踏まえた構成」について10点→5点にする。「事前資料」項目4「結果の再現性や信頼性」を項目5に含めて評価することが妥当だと思われる。配点を5点→10点にする（熊本県）。発表原稿と読みの小さな間違い（読み間違いなど）での、減点対象はなくした方が良い。趣旨が違うのではないかと（宮崎県）。

### 3. プロジェクト発表会実施基準についての補足説明2②について

## 実施基準についての補足説明2②について

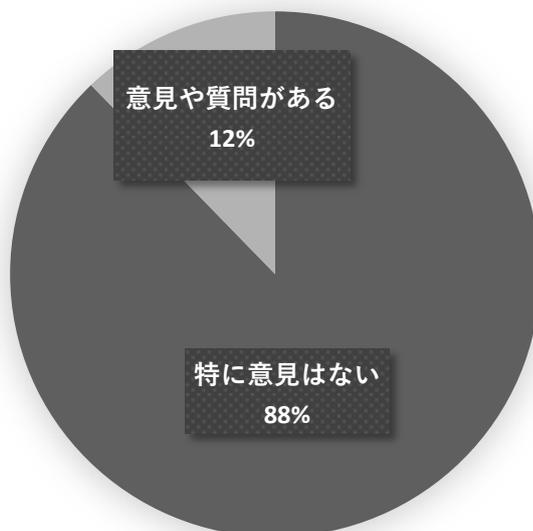


#### 《意見がある》

- 2番目の項目について、学習指導要領に則った分野、審査基準の改訂であるならば、プロジェクト発表そのものの参加要件として矛盾を感じる。基本的に各校の教育課程に位置づけられて、その科目を学習していることを前提として、その学習活動を発展させて課題解決する取組を行うのがプロジェクト活動としてあるべき姿ではないか。したがって、部活動のような形で任意のクラブ員が活動しているプロジェクト活動についてはエントリーを認めるべきではないと考える。北海道のようにクラブ員全員が教育課程に位置づけられた科目の延長で授業時間及び課外活動でプロジェクト活動を展開している場合と同じ土俵で発表会に参加するには不公平感がある。任意の部活動としてプロジェクト発表をするのであれば、他団体（高文連等）の発表会で活動していくべきではないか（北北海道）。
- 意見発表会とプロジェクト発表の食品製造のところは、統一した方が、指導がしやすいのではないかと意見がありました（北北海道）。
- Ⅱ類の具体例をもう少し幅広くした方が良いのではないかと。限定すぎるので意見発表と内容を同じにするのも良いのでは（岩手県）。
- 発表者の意図によってⅠ～Ⅲ類のいずれにもなりうるし、審査員の見解によってその意図が合致するか否かで審査得点にも大きく影響してくる（秋田県）。
- 食品製造の補足説明は分野のすぐ下には書かないと混乱を招く恐れがある・補足説明に「食品製造や食品流通の分野はⅠ～Ⅲ類の分野に設定しない」（一部省略）とあるがⅡ類の「国土保全・環境創造」とのかかわりがまったくわからない・それならば、Ⅲ類の「資源活用・地域振興」をⅠ～Ⅱ類と食品製造にかぶせたほうがしっくりくる（神奈川県）。
- 分野Ⅱ類で、食品製造や食品流通が、「この分野に関する内容がⅠ類からⅢ類までの各分野の内容と関連することにより学習の幅が広がることが期待されるため、発表分野の類として設定しない」とあるが、他の分野の内容も他の分野と関連することで学習の幅が広がることから、食品製造や食品流通の分野のみを外す理由にはならないのではないかと（三重県）。
- 生徒及び教員や担当者に関する感染対策、場所や人数の制限等の配慮をお願いします（大阪府）。
- 関連させてしまうことで、Ⅰ類とⅢ類の違いが分かりにくくなり、審査しにくくなるのではないのでしょうか（兵庫県）。
- 問2と同じ（佐賀県）。
- Ⅱ類の「生物多様性の保全に関する研究」を「微生物の活用や生物多様性の保全に関する研究」（佐賀県）。
- 問2.と同様の意見（長崎県）。
- プロジェクトの食品製造がⅠ類かⅢ類で悩む。補足説明に記載されているがやっぱり曖昧に感じます（熊本県）。

4. その他、プロジェクト発表会の実施基準全体を通して何かご意見やご質問、お気づきの点などがございましたらご記入ください。

## 実施基準全体を通しての意見・質問等



### 《意見や質問がある》

- 定期的に改定はおこなわれているが、区分名をもっとわかりやすく変えて、中学生や一般の方が大会の名前に触れたときにわかりやすくしてはどうか（北北海道）。
- Ⅱ類の研究内容の検討（岩手県）。
- 本意見は昨年度農業クラブ全国大会平成31年度南東北大会のプロジェクト発表会を運営した学校の意見として聞いて頂けると幸いです。
  - ①プロジェクタとの接続ケーブルについて 令和元年度南東北大会実施要項の補足説明11発表会の進め方(3)発表機器(大会事務局で準備するもの)の項目に※液晶プロジェクターへの接続はRGB端子とし、RGBコードは実施担当校が用意する。※HDMIコード等を使用する場合は変換器を発表校が用意し、RGBコードと接続することとし、不具合は発表校の責任とする。と記したが、昨年の全国南東北大会第1回審査委員会の審査員の方からと、平成30年東北ブロック大会(全国大会リハーサル大会)時の説明会の際に「近年パソコン接続端子は様々な形状がある。RGB端子によるRGBコードによる接続はやめにして、HDMIコード接続の1本化した方が良いのではないか。」と発表チームの指導者から同じ質問があった。発表側からすると発表のスムーズ差という面においてはHDMIコードによる発表の方が断然良いと思われる。しかし運営側の問題点は動画編集による音声をイヤホンジャックから出力できなくなる問題点が生じる。また、同時出力の機器を使えば、それだけ機械トラブルのリスクが上がる。そのため準備の煩わしさからこの問題は棚上げ状態になっていたのではないか。時代の背景等を勘案するとこの実施要項ではなく実施基準レベルで検討する必要があるのではないか。
  - ②パソコンの持ち込み台数について 参加校から「パソコンを予備を含め、2台体制で発表にあたる予定でいる。しかし、以前の全国大会(鹿児島大会)でパソコンを2台用意して発表したところ注意を受けた。南東北大会では、2台体制で発表に当たって良いか。」という質問を受け、これを認め、早急に他の参加校にも予備機PCの申請調査を行うような形となり、参加校にも迷惑をかけてしまった。実施基準3ページの(3)発表方法②「プロジェクターの台数は、1台とする。」と同様に、実施基準にパソコンの持ち込み可能台数を明記することによって、このようなトラブルを避けることができるのではないだろうか。以上2点について、よろしく願い申し上げます(宮城県)。
- 意見発表の分野との整合性がとれていない(秋田県)。
- 将来的にはプロジェクト発表、意見発表の分野と内容は統一してはどうか(埼玉県)。
- 審査後、一般や中学生のために会場を開放するのはどうか。(理由1)農業クラブの活動、農業高校の紹介など、全国的に認知されるようになる。(理由2)教育機関、研究機関、企業などに紹介することで、協力体制の確立が可能になる(神奈川県)。

- 事前練習の機器準備で、生徒だけでは対応できないトラブルもあったので、教員の補助を認めてもらいたい（山梨県）。
- 新教育課程にあわせた基準検討（社会の動静や新しい情報）（山梨県）。
- 発表時間を15分程度に延長する必要を感じる（静岡県）。
- 訂正（9）審査基準と配点 ～必要な資質。能力～（。を、に） ②発表分野と具体的内容 Ⅲ類 園芸作物や社会動物を用いた～研究・療法や交流～ 療法は好ましくない。治療は看護師・医師などの有資格者しかできない（静岡県）。
- 意見発表と違いⅢ類の内容にあえて園芸作物と記載されているのは理由があるのだろうか（新潟県）。
- 審査の点数の付け方の基準が欲しい。例えば、誤字脱字は①同じ間違い（漢字の間違い）を繰り返した場合はその都度、減点するのか。②独特の言い回しをどのように評価するのか（新潟県）。
- 1：同じ分野内でも内容を比較しづらいことが多いと思いますが、無理に順位づけをする必要はないのではないのでしょうか。順位を求める活動になりがちだと思います。2：エントリーシートを提出して、エントリーする分野について発表者の考えを示すが、審査員はこれについて「分野違い」等の審査・判断はしているのでしょうか？（長野県）
- 機材の制約や条件などを1度見直しをしたら良いと考える。Ⅱ類の（例）に、観光に対する研究とあるが、農業関連の観光であることを明らかにした方が良い（富山県）。
- 第72回春季代議員会報告書の議案に対する意見・質問で、「プロジェクト発表会で示しました分野で意見発表会と統一することで進めています」と回答していただいているが、どのような議論の過程を経て、プロジェクト発表会の分野で統一するという方針へと変更されたのか。現在案に至る経緯とどのような理由があったのか教えていただきたい（岐阜県）。
- 意見発表の3分野と分類・内容が違うのはどうしてか？（京都府）
- 生徒及び教員や担当者に関する感染対策、場所や人数の制限等の配慮をお願いします。各都道府県の会場等も含む（大阪府）。
- 総合学科で、課題研究や総合実習を履修しない場合、プロジェクト発表会に参加するほど深い学びには至らないと考える（和歌山県）。
- 発表方法に関して 発表者は必ず発表場所（演台）でとあるが、より自分たちの発表とするのなら、スクリーン横で動きながら審査員に訴える発表もよいのではないかと（愛媛県）。
- 「地域や社会の健全で・・・」の内容についてプロジェクト発表では審査項目となっているが、プロジェクト発表の目的には記載しないのか。意見発表では目的にも記載されている（愛媛県）。
- オンラインでの実施基準を作成してはどうか。・近年、大学や企業とのタイアップがみられるが、高校生がする研究なのか疑問がある。高校生ができる研究を大学や企業からアドバイスをもらうべき（佐賀県）。
- 質問2、3と同様の意見（長崎県）。
- プロジェクト発表及び意見発表のエントリーシートは、内容を簡略化（文字数を減らす）することはできないか（熊本県）。
- 現在の社会情勢に合わせた内容にするべきだと強く感じます（大分県）。
- エントリーシートが本当に必要なのか（宮崎県）。
- プロジェクトでは分野Ⅱ類に国土保全が入っているが、意見発表ではⅡ類に食品製造が入っている。これらが異なる理由はなぜですか？（沖縄県）